

作家は独裁者を愛し、独裁者は詩を愛す。

劇団印象-indian elephant- 20周年記念 第30回公演

『犬と独裁者』

2023年7月21日（金）～30日（日） 下北沢・駅前劇場

この度、劇団印象-indian elephant-は、7月21日（金）～30日（日）に下北沢・駅前劇場にて、**劇団創立20周年記念&第30回公演『犬と独裁者』**を上演いたします。本作は、**ウクライナ生まれでロシア（語）の作家ミハイル・ブルガーコフ**と、ソ連の独裁者**スターリン**の関係を描いた作品です。

■ なぜ今、ブルガーコフとスターリン？

ソ連時代のロシアを代表する作家ミハイル・ブルガーコフ。彼の代表作として知られているのは小説『巨匠とマルガリータ』、『犬の心臓』、『白衛軍』、戯曲『トゥルビン家の日々』、『ゾーヤ・ペーリツのアパート』等ですが、モスクワ芸術座からの依頼で、ソ連の独裁者・スターリンの評伝劇『バトゥーム』を書いていたことは、あまり知られていません。この史実にヒントを得て、作家と独裁者の関係を、描くことに挑戦しました。

本作は、反革命であり、反体制の作家だったブルガーコフが、スターリンの粛清の嵐の中をなんとか生き延び、自分の作品を遺すために、スターリン評伝劇の執筆を承諾するところから始まります。作家と独裁者、詩と革命、自由と服従といった、いくつもの要素を折り重ねながら、ブルガーコフとスターリンの関係に迫ります。



■ 若き日のスターリンは詩人だった？

もう一つの注目すべき史実として、スターリン（本名：ヨシフ・ジュガシヴィリ）は、帝政ロシアの一地方だったグルジア（現ジョージア）出身であり、若かりし頃は、詩を書いていました。彼の詩は新聞に掲載されることもあったほど。そんな文才豊かな男が、どのように詩の道を捨て、革命家の道に進み、やがて、独裁者になっていったのかを、ブルガーコフの目を通して描きます。

また、今、独裁者にフォーカスを定めることによって、混迷のロシア・ウクライナ情勢について、考える契機にもしたいと考えました。



■ モスクワ芸術座の関係者たちが多数登場！ ※スタニスラフスキーは出てきません。

演劇史に残る、伝説のロシアの劇場であるモスクワ芸術座の関係者も多数登場することにもご注目ください。是非、劇場でご覧ください。

ご多忙中とは存じますが、事前告知やご取材のご協力を賜りますと幸いです。

公演情報：<https://inzou.com>



〈お問い合わせ〉

特定非営利活動法人 劇団印象-indian elephant- 担当：村上・鈴木

E-mail info@inzou.com 電話：090-7139-1548 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 4-43-14



作・演出より

革命時代のソ連を生き、小説『犬の心臓』、『巨匠とマルガリータ』を残した、劇作家・小説家のミハイル・ブルガーコフ（1891-1940）。彼と同時代を生きたソ連の独裁者スターリン（1878-1953）。ブルガーコフはその死の前年、モスクワ芸術座から依頼され、スターリンの評伝劇を書き上げた。しかし、直後、その戯曲は政府からの命令で上演禁止となる。そのエピソードを基に、この物語を構想した。

スターリンは、ロシア帝国で少数民族だったグルジア人の出であり、若かりし頃は、グルジア語で詩を書き、その詩がグルジアの新聞に掲載されたこともあった。そんな詩を愛する青年が、どうして独裁者になっていったのか？青年スターリンとブルガーコフを無理やりに繋げて、当時決して明るみになることはなかった革命家スターリンの第一歩を、ブルガーコフに覗かせてみたくなった。対象を愛せなければ、評伝劇は書けない。私がブルガーコフなら、スターリンを愛せただろうか？そんなことを考えながら、紡いだ物語である。

鈴木アツト

公演概要

出演

玉置祐也：ミハイル・ブルガーコフ

佐乃美千子：エレナ・ブルガーコワ

金井由妃：リュボフィ・ベロゼルスカヤ

二條正士：ウラジーミル・ドミートリエフ

武田知久：ソソ

矢代朝子：ワルワラ・マルコワ

*写真は、出演者名順に上段左から右、下段左から右の順



公演日時 全 13 ステージ

2023年7月21日（金）～30日（日）

[開演時間]

7/21（金）19:00◎

7/22（土）13:00◎ / 18:00◎★

7/23（日）13:00◎ / 18:00◎★

7/24（月）休演日

7/25（火）14:00◎

7/26（水）19:00★

7/27（木）14:00◆ / 19:00◆

7/28（金）14:00

7/29（土）13:00 / 18:00

7/30（日）13:00

◎＝前半割

◆＝動画撮影用カメラが客席に入ります。

★印：終演後アフタートーク（約20分）あり

7月22日（土）、23日（日）ゲスト未定

7月26日（水）19:00 出演者座談会

（出演者が、歴史劇を演じる際の役作り等について語ります。）

※受付開始は開演の45分前/開場は開演の30分前

上演時間：2時間を予定

会場 下北沢・駅前劇場

京王井の頭線の方は、中央口改札より徒歩約3分

小田急線の方は、東口改札より徒歩約3分

〒155-0031

東京都世田谷区北沢 2-11-8 TARO ビル 3F

tel/03-3414-0019

チケット 全席指定 | 前売・当日共通料金

○前半割 一般：¥4,500 U29：¥3,000※要証明書

○一般：¥5,000 U29：¥3,500※要証明書

※演出の都合上、開演後は入場をお待ちいただく場合がございます。また、指定のお席にご案内できない場合がございます。

※未就学児のご入場はお断りいたします。

※U29（29歳以下）の方は公演当日、年齢確認ができる身分証明書をご提示ください。

※車いすでの鑑賞をご希望のお客様は、チケットご購入前にお問い合わせ先までご連絡ください。

ご予約

【チケット】

- チケットぴあ（Pコード：519442）
- イープラス（WEB／アプリ／ファミリーマート店舗）※一般のみの販売
- CoRich チケット！ <https://ticket.corich.jp/apply/260672/>
- J-Stage Navi（電話・WEB）03-6672-2421（平日12：00～18：00） / <http://j-stage-i.jp>

公演に関するお問い合わせ J-Stage Navi 03-6672-2421（平日12～18時）

スタッフ

作・演出：鈴木アツト

宣伝イラスト：大野舞"denali"

舞台美術・小道具：西宮紀子

舞台写真：菅原康太

舞台監督：(株) ステージワーク URAK

音楽・制作：村上理恵

照明：篠木一吉（(有)創光房）

制作協力：J-Stage Navi

音響：斎藤裕喜（Québec）

協力：演劇集団円、オフィス松田、劇団民藝、ビクターミュージックアーツ

衣裳：仲村祐妃子

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（創造団体支援）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

ヘアメイクプラン：西藤恭子

演出助手：モカ

企画・主催：特定非営利活動法人 劇団印象 indian elephant

宣伝デザイン：沼上純也（イキマ）

劇団紹介

劇団印象-indian elephant-

“印象”と書いて“いんぞう”と読む。劇作家・演出家の鈴木アツトを中心に2003年に設立。「遊びは国境を越える」という信念の元、“遊び”から生まれるイマジネーションによって、言葉や文化の壁を越えて楽しめる作品を劇作りし、観劇後、劇場を出た観客の生活や目に映る日常の景色の印象をガラッと変える舞台芸術の発信を目指している。(撮影：青木司)



〈作・演出〉鈴木アツト

劇作家・演出家。劇団印象-indian elephant-主宰。1980年、東京都生まれ。慶応義塾大学卒。2003年、劇団印象(いんぞう)-indian elephant-を旗揚げ。2015年、国際交流基金アジアセンター アジアフェローとして、タイに2ヶ月滞在。また、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として英国・ロンドンに10ヶ月留学。2016年、『The Bite(英訳版青鬼)』と『グローバル・ベイビー・ファクトリー』が、ロンドンでリーディング上演される。2019年には、ポーランド・ベンジン市のドルマーナ劇場から招聘され、『Ciuf Ciuf! (チュフ・チュフ)』(作・演出)を滞在創作した。『エーリヒ・ケストナー～消された名前～』(2020年)は、初の評伝劇に挑戦し、毎日新聞に取り上げられる等、好評を博した。

主な代表作は、「国家と芸術家シリーズ」四部作の、『エーリヒ・ケストナー～消された名前～』、『藤田嗣治～白い暗闇～』、『ジョージ・オーウェル～沈黙の声～』、『カレル・チャペック～水の足音～』。

主な受賞歴

2022年、『カレル・チャペック～水の足音～』で、令和4年度希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」最終候補作。

2021年、『藤田嗣治～白い暗闇～』で、令和3年度希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」最終候補作。

2021年、『エーリヒ・ケストナー～消された名前～』で、第27回劇作家協会新人戯曲賞 最終候補作。

2020年、『3度の飯より君が好き』で、第7回せんだい短編戯曲賞 最終候補作。

2013年、『青鬼』で、若手演出家コンクール2012 優秀賞と観客賞受賞。

2013年、FFAC 創作コンペティション『一つの戯曲からの創作をとおして語ろう!』vol.4で、観客賞受賞。

2012年、『グローバル・ベイビー・ファクトリー』で、第18回劇作家協会新人戯曲賞 最終候補作。

2010年、『匂衣』で、第10回AAF 戯曲賞 最終候補作。

2009年、『青鬼』で、横浜SAACアワード2009年度・佳作賞受賞。第9回AAF 戯曲賞 最終候補作。

